中部学院大学・中部学院短期大学部　研究紀要第10号(2009) 143-150

短期大学入学時における安定した人間関係の形成に関する研究(第１報)

The educational effects and human relation development on the freshman overnight orientation program(#1)

仲村正巳　林陽子　飯尾良英　吉川杉生　稲垣貴彦　小木曽加奈子　松野裕子
黒葛原健太郎　尾里育士

Masami NAKAMURA, Yoko HAYASHI, Yoshihide IIO, Sugio YOSHIKAWA
Takahiko INAGAKI, Kanako OGISO, Yuko MATUNO,
Kentaro TUZURAHARA, Yasushi OZATO

キーワード：新入生宿泊研修　人間関係　精神健康

１．はじめに

短期大学生にとって学生生活が始まったばかりの頃に経験することは，２年間という短い学生生活を適応的に過ごせるかどうかを方向づける重要な要因であると考えられる。学生生活への早期適応を図るため，入学時オリエンテーション合宿やキャンプ等，様々な工夫と試みが行われている[1)～3)]。

中部学院大学短期大学部では，中部女子短期大学時代，幼児教育学科を中心に宿泊研修が行われていた。また，社会福祉学科では1998年から，数年にわたって２泊３日，１泊２日の宿泊研修が行われてきた。しかし，2005年以降，さまざまな要因のため，実施規模が縮小され，宿泊なしのデイキャンプとして実施されてきた。

短期大学部では，幼児教育学科及び社会福祉学科が協同して，学生間の仲間づくり，地域社会との交流等を目的として，2008年５月20～22日の間，岐阜県白川村にあるトヨタ自然学校で１泊２日の宿泊研修を行った。研修プログラムについては，資料１に示した。

この研修内容等の評価を主たる目的として，研修前および研修後に学生を対象にアンケート調査を行ったので，調査結果の概要および宿泊研修効果について報告をする。

２．調査内容と手続き

調査対象者数は，社会福祉学科63，幼児教育学科107であった。

⑴事前調査として，宿泊研修実施前に，研修への期待度，目的・心配・研修経験の有無，各プログラムへの期待，学生生活満足度等で構成された調査票（資料2）及びGHQ60精神健康調査票による調査を必須科目授業内に配布・回収した。

⑵事後調査として，研修時期・期間・場所・費用の評価，宿泊施設・食堂・居室の快適さ，食事内容等の適切さ，村内交流プログラム・研修プログラム全体の評価，級友・教師等対人交流の評価，自身の内的体験の評価等で構成された調査票（資料3）による調査を研修後１～２週以内に各ゼミナール授業内で配布・回収した。

３．調査結果の概要

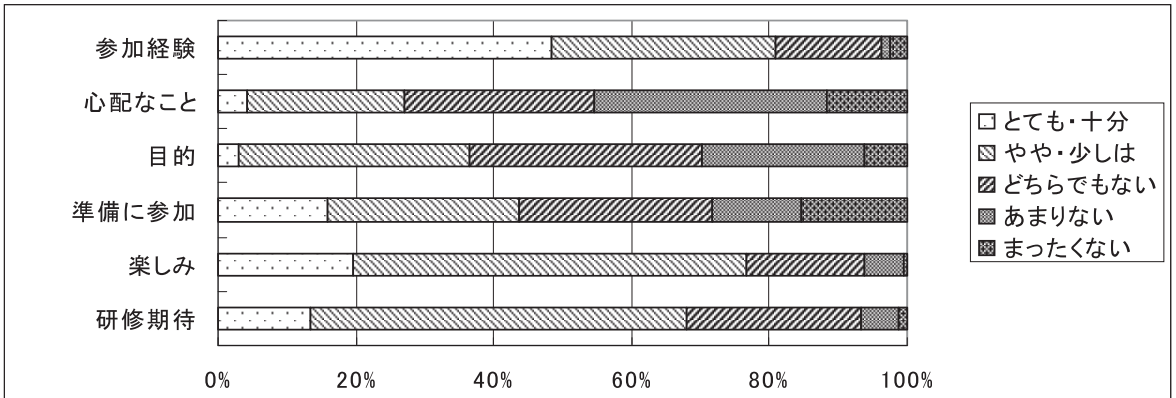
⑴事前調査結果－研修への期待

宿泊研修に対する期待，楽しみ，事前準備への参加，目的，心配，同様の研修参加経験の度合を聞いた。短大部全体の集計結果を図１に示した。「研修期待」の肯定的回答は68.1%，「楽しみ」であるとする肯定的回答は76.7%といずれも高く，事前に何回かに分けて行われた研修オリエンテーション効果の証左であろう。

プログラム別の期待度については，図２に示した。「自然学校夕食」への期待が最も高く，64.8%，同じく「宿泊」は，61.1%で，研修施設のもつ食事，宿泊サービスへの期待は高かった。初めてとか魅力的ななど施設そのもののもつ期待度と考えていい。

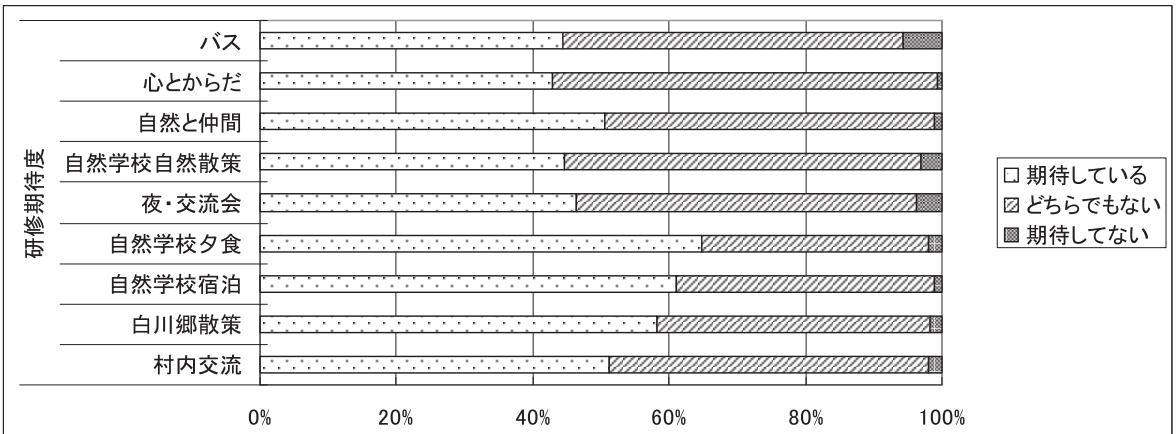
宿泊施設についで「白川郷散策」が58.3%，「村内交流」が51.2%と半数以上の期待があった。「村内交流」

図１　事前調査　研修期待　全体



	研修期待	楽しみ	準備に参加	目的	心配なこと	参加経験
まったくない	1.2	0.6	15.3	6.2	11.7	2.5
あまりない	5.5	5.5	12.9	23.5	33.7	1.2
どちらでもない	25.2	17.2	28.2	34	27.6	15.3
やや・少しは	54.6	57.1	27.6	33.3	22.7	32.5
とても・十分	13.5	19.6	16	3.1	4.3	48.5

図２　事前調査　プログラム別研修期待　全体



	研修期待度								
	村内交	白川郷	自然学	自然学	夜・交流	自然学	自然と仲	心とから	バス
期待してない	1.9	1.8	1.2	1.9	3.7	3.1	1.2	0.6	5.6
どちらでもない	46.9	39.9	37.7	33.3	50	52.2	48.1	56.5	50
期待している	51.2	58.3	61.1	64.8	46.3	44.7	50.6	42.9	44.4

は，小グループに分かれ白川村内の高齢者施設，幼児施設などを訪問し，交流するプログラムである。

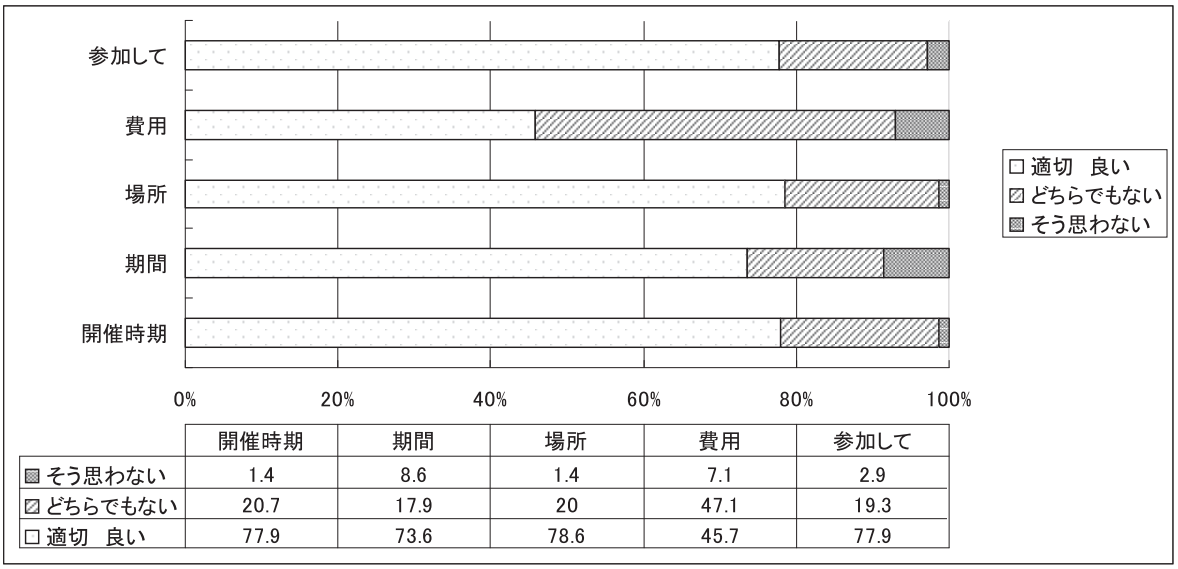
両学科学生交流プログラムである自然学校スタッフが提供する「自然と仲間」「心とからだ」は，50.6と42.9%，学科内学生交流を目的にした「夜・交流会」は，46.3%，施設周辺を視線学校スタッフに案内してもらう「自然散策」が，44.7%と続いている。

(2)事後調査結果

研修全体の評価について，「開催時期」，「期間」，「場所」，「費用」，「参加」の意義の５点を問うた（図３)。参加「費用」が45.7%と半数を切ったが，「時期」「場所」「参加」意義の何れも８割弱の肯定的評価を得た。「期間」については73.6%であったが，自由記述で「もう少し長い期間」の提案がいくつかあった。

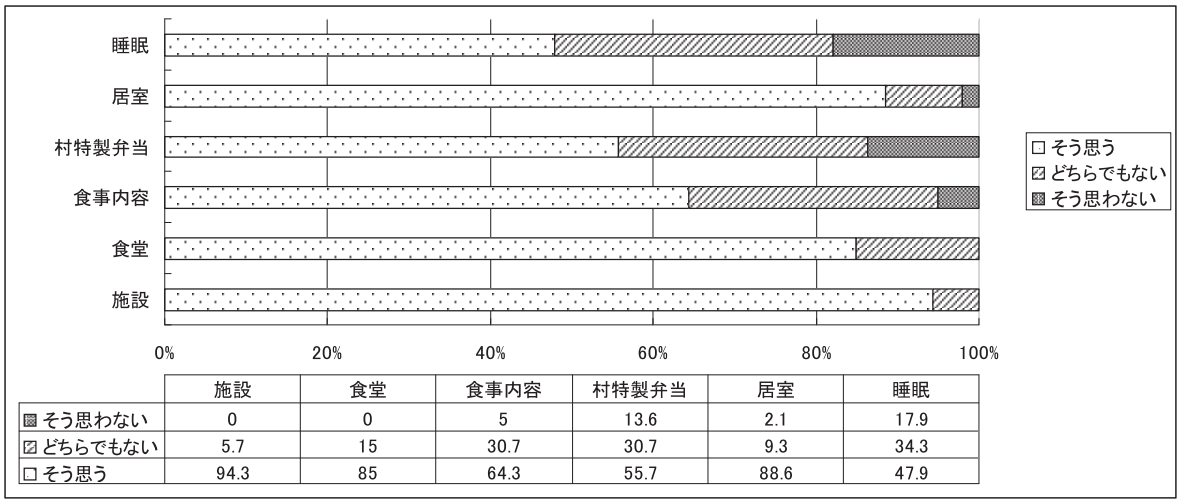
宿泊施設・住環境と食事の評価結果については，図４に示した。自然学校という「施設」全体の肯定評価は94.3%ときわめて高く，ほとんどが，快適であった，としている。「居室」「食堂」の評価も高い。夕食，朝食の「食事内容」はやや下がるが，64.3%が良かったとしている。「ご飯が食べたかった」という記述が何例かあった。「村特製弁当」は，地元食材を生かしたものであったが，55.7%と，意外に低率となった。「睡眠」が良くとれたのは47.3%で，評価が分かれた。クラスメイト

図３　研修全体　事後評価



	開催時期	期間	場所	費用	参加して
そう思わない	1.4	8.6	1.4	7.1	2.9
どちらでもない	20.7	17.9	20	47.1	19.3
適切　良い	77.9	73.6	78.6	45.7	77.9

図４　施設・住環境，食事内容　全体



	施設	食堂	食事内容	村特製弁当	居室	睡眠
そう思わない	0	0	5	13.6	2.1	17.9
どちらでもない	5.7	15	30.7	30.7	9.3	34.3
そう思う	94.3	85	64.3	55.7	88.6	47.9

交流要因と対峙する関係にあるものと考えられる。

ついで，研修プログラムの評価結果を図５に示す。両学科における各研修プログラムの進行および研修内容が異なり，また評価の違いも見られるので，学科別に結果を示した。

社会福祉学科でもっとも「良かった」のは，「村内交流」で67.7%，「良かった」がもっとも低率なのは，「学科交流」で 41.9%であった。一方，幼児教育学科でもっとも「良かった」のは，初日午後に行われた「ドッジボール」で 93.6%ときわめて高かった。「ドッジボールが楽しかった」という自由記述回答が多数あった。「良かった」がもっとも低率である「学科交流」でも53.8%の評価があり，社会福祉学科と比較して11.9ポイントの差があった。

つぎに，対人交流と個人内変化に関する研修効果の評価結果を示す。

まず対人交流については図６に示したように，「クラスメイト」，「他学科学生」，「教員」，「村の人」の４者との関係を「交流時間」および「交流を深める」の視点から聞いた。

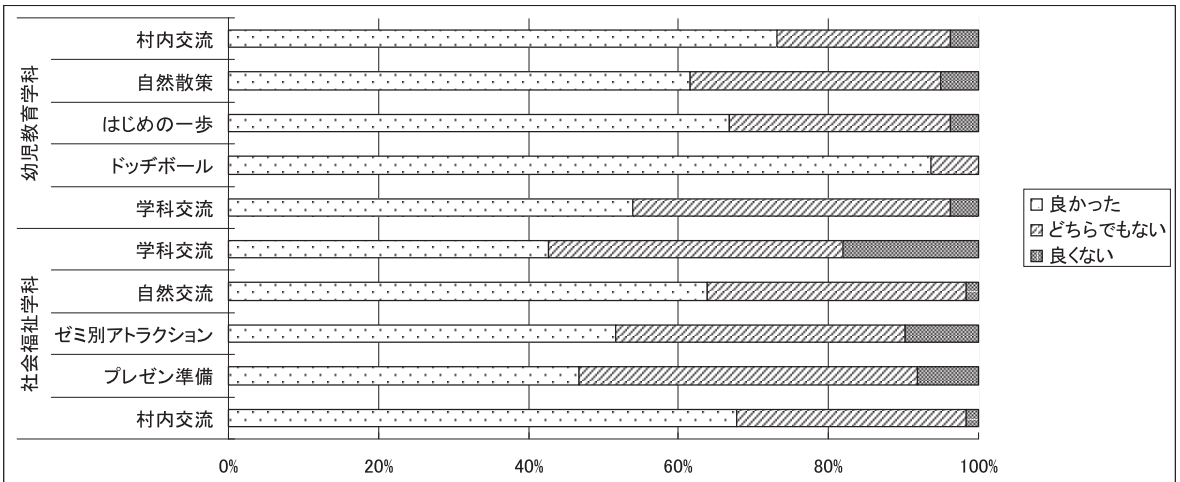
「クラスメイト」との「交流時間」が十分あったとするのが，81.4%，同じく「交流深める」ことができたとするのが，85.0%と，いずれも高率であった。

「他学科学生」との「交流」では，「時間」が 42.9%，「深める」が 39.3%であった。「そう思わない」という否定的評価が 16.4%，18.6%と 4 者の中では高率となった。昼食をはさんで，3 時間ほどのレクリエーションを介した「交流」であったが，「知り合ってよかった」とか，その後「学内であいさつをする」などの自由記述もあった。

「教員」との交流では，「時間」「深める」ともに 27.9%の肯定的評価であった。

「村の人」との交流では，それぞれ 22.9%，25.0%の肯定的評価であった。

図５　学科別プログラム別評価



	社会福祉学科					幼児教育学科				
	村内交流	プレゼン	ゼミ別ア	自然交流	学科交流	学科交流	ドッヂボー	はじめの	自然散策	村内交流
良くない	1.6	8.1	9.7	1.6	17.7	3.8	0	3.8	5.1	3.8
どちらでもない	30.6	45.2	38.7	33.9	38.7	42.3	6.4	29.5	33.3	23.1
良かった	67.7	46.8	51.6	62.9	41.9	53.8	93.6	66.7	61.5	73.1

ついで個人内変化（研修における学び）の評価結果については，図７に示した。

まず「コミュニケーション」の大切さの学びについては，83.6%が肯定している。「協調性」が 81.4%と続き，何らかの「成長」が 72.9%，「責任」が 70.0%，「自主性」が 66.4%の順となっている。

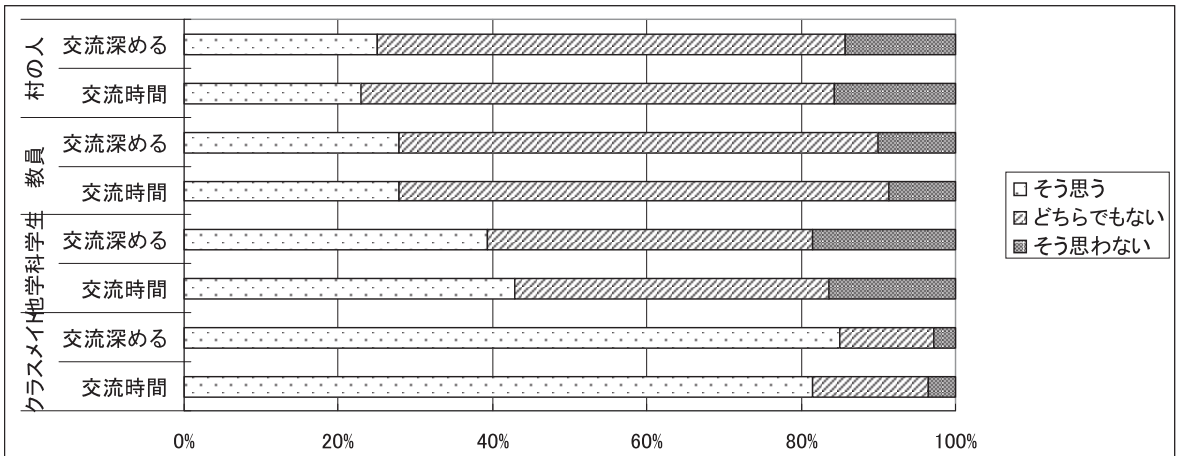
自由記述にある「知らない人と知り合いになれた」「風呂に一緒に入って楽しかった」など研修プログラム外における交流を楽しんだようだ。

(3)宿泊研修の全体的評価

図１に示される，事前の研修への「期待」肯定比率は，68.1%であったが，事後評価の図３に示す「参加して」良かったとする肯定比率は77.9%と，9.8ポイント上回った。期待以上に良かったということができる。自由記述の「参加する前はちょっと不安だったけど，参加して良かった」という回答は肯定的変化を代表するものであろう。

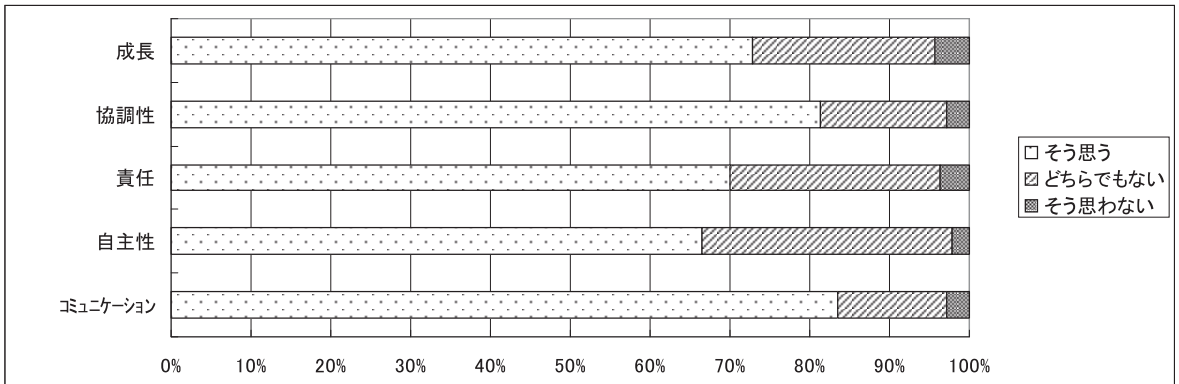
図２に示したプログラム別の研修期待では，「自然学校宿泊」，同「夕食」の肯定比率が，それぞれ 61.1%，64.8%であるが，研修後では図４に示す「施設」，「食堂」環境の肯定比率が，94.3%，85.0%と，33.2，20.2ポイント事後評価が上回った。学生にとって自然学校の施設全体の快適さは予想を大きく上回るものであった。研修全体の印象評価としては，宿泊先の施設環境の快適さに大きく依存していることが分かる。

図６　研修効果　対人交流　全体



	クラスメイト		他学科学生		教員		村の人	
	交流時間	交流深め	交流時間	交流深め	交流時間	交流深め	交流時間	交流深め
そう思わない	3.6	2.9	16.4	18.6	8.6	10	15.7	14.3
どちらでもない	15	12.1	40.7	42.1	63.6	62.1	61.4	60.7
そう思う	81.4	85	42.9	39.3	27.9	27.9	22.9	25

図７　研修効果　個人内変化（学び）　全体



	コミュニケーション	自主性	責任	協調性	成長
そう思わない	2.9	2.1	3.6	2.9	4.3
どちらでもない	13.6	31.4	26.4	15.7	22.9
そう思う	83.6	66.4	70	81.4	72.9

ついで，図２と図５の結果から研修プログラムについて検討する。

まず「村内交流」であるが，事前期待では両学科で51.2%の期待比率であったが，事後評価では「社会福祉学科」67.7%，「幼児教育学科」73.1%と，それぞれ16.5，21.9ポイント上回っており，期待以上の肯定的評価が得られた。

研修初日の夜に行った学科内の交流を図るプログラム「夜・交流会」の期待比率は，46.3%であったが，社福学科「ゼミ別アトラクション」の事後肯定は51.6%，幼教学科「はじめの一歩」の事後肯定は66.7%で，いずれも期待以上の肯定評価があった。幼教学科では，20.4ポイントと大きく上回った。

自然学校スタッフによる「自然散策」については，44.7%の期待であまり高くなかったが，これも社福学科62.9%，幼教学科61.5%と研修結果の肯定率のほうが上回った。

学科間の交流を行う「自然と仲間」「心とからだ」のプログラムは50.6%と42.9%の期待度であったが，事後評価としての「学科交流」は，社福学科で41.9%と期待をやや下回った。幼教学科では 53.8%と期待をやや上回った。社福学科における事後評価の低率については，自由記述にあった「睡眠不足で楽しめなかった」「体調を崩した」「幼教の元気なノリに疲れた」という回答が説明してくれている。

また，幼教学科における初日午後の「ドッジボール」評価がどのプログラム以上に大きく肯定されている「ドッジボールが楽しかった」という記述，そのゲームに関するエピソード記述の回答がたくさんあった。

対人交流および個人内変化の研修効果については，当然ながら「クラスメイト」との交流を深め，「コミュニケーション」の大切さを学んだことがあげられる。予想以上に高い肯定率であった。

(4)研修全体振り返りの自由記述からみる評価

全体振り返りの自由回答欄記述にみられた，研修の不満，問題点および改善提案を挙げておく。

自然学校のもつ自然環境の良さと裏腹の関係にあることであるが，周りに何もない，コンビニがない，電話がつながらない等，普段の生活感覚から生じる不便感の記述があった。「その分友達とよくおしゃべりできた」という記述もあった。

宿泊の部屋割りについては，自分たちで決めさせてほしい等一部不満があった。

村内交流プログラムでは，幼教学科学生が高齢者と交流したこと，社福学生で幼児と交流したことを自分の関心と異なる経験をして良かったと肯定する一方，別のプログラムに参加したかった，という否定評価もあった。

社会福祉学科学生の意見として，全体に時間が押していた，予定がぎっしりしていた，お土産を買う時間がなかった（これは幼教学生も指摘した），等時間的余裕があまりなかったという記述がいくつかあった。これらの意見は，「来年度の短大生達の研修にはもっと余裕を持って予定を立てるべきだと思いました」という次の新入生に思いを馳せたとても思慮深い意見に集約されているように思われる。

研修目的の課題をどのように絞るかという課題が残された。

４．今後の研究の方向

研究全体の目的としては，「宿泊研修が入学間もない学生に対し安定した人間関係の形成を促進するか，その後の学生生活適応にどのような影響を与えるか」にあり，６ヶ月経過時に，研修の肯定的評価及び否定的評価を行った学生群をそれぞれ対象にした小グループディスカッションの実施が予定されている。これにより否定的評価学生群における態度変化の可能性を探ることとしている。また，学生生活満足度及び GHQ60 精神健康調査票との関

連性の検討が残されている。

これらの結果に基づいて，今年度実施研修の課題，問題点を明確にしながら，多様化する学生に対応できる効果的研修プログラムを次年度に向け検討していくという新たな課題も生まれてきている。

参考文献

１）坂田浩之，作久田祐子，奥田亮，川上正浩（2007）新入生オリエンテーションにおける獲得感と大学満足度との関連性について　大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要　６　45 - 53

２）池田紀子，奥野茂代，石川利江，野坂俊哉，岩崎朗子，見藤隆子（2001）新入生オリエンテーション合宿と評価　長野県看護大学紀要　３　11～20

３）高橋ゆかり，高木タカ子，関妙子（2003）　経験型実習としての野外生活体験学習（共育キャンプ）導入の試み - ライフスキル教育の視点から -　群馬パース学園短期大学紀要　５(2)　359～372

資料１　2008 年新入生宿泊研修日程　社会福祉学科分

５月 20 日（火）		５月 21 日（水）	
		7:00	朝食
		8:30	チェックアウト
9:20	関キャンパス出発（スクールバス）	9:00	自然探索　出発
			自然学校ｲﾝﾀﾌﾟﾘｯﾀｰによる
		10:00	自然探索　自由時間
10:50	平瀬　通過		
11:10	荻町	11:10	幼児教育学科到着
	村内体験交流		短大部合同研修オープニング
		11:30	自然と仲間をつなげるプログラム
12:00	昼食　持参したもの	12:10	昼食（白川村サークル特注弁当）
	村内体験交流継続	13:00	心とからだをときほぐすプログラム
		14:20	自然学校を出発
	村内交流終了		
15:00	集合　自然学校出発		
:15	自然学校到着　居室整理		
16:00	村内体験交流・ゼミ別発表会準備	16:20	大学関キャンパス到着
18:00	夕食		
19:30	村内体験交流・ゼミ別発表会		
21:00	入浴・コミュニケーション		
	就寝準備		

資料２　事前調査票　　両学科共通　回答欄・自由記述欄を省略し質問項目のみを掲げた。

１．この研修に期待している
２．この研修を楽しみにしている
３．研修の準備に参加している
４．自分なりの目的を考えている
５．研修について心配なことがある
６．これまでこのような研修には楽しく参加したことがある
７．次の研修内容（プログラム）について，期待しているかどうか，表区分の該当するところに〇印をひとつ付けてください。
　Ａ 白川村体験交流
　Ｂ 白川郷散策
　Ｃ トヨタ自然学校宿泊
　Ｄ トヨタ自然学校夕食
　Ｅ １日目夜の交流会
　Ｆ ２日目朝の自然学校企画自然散策
　Ｇ 合同プログラム：自然と仲間をつなげるプログラム
　Ｈ 合同プログラム：自然と仲間をつなげるプログラム
　Ｉ 行き帰りのバス
　Ｊ その他
8-1 学びたいことが大学で学べる
　-２ 幼児教育学科や社会福祉学科の授業内容に満足している
　-３大学の授業が面白い
　-４学内の友人関係に満足している
　-５大学の交友関係はひろい
　-６大学で本当に親しい友人がいる
　-７大学での毎日が充実している
　-８大学生活が楽しい
　-９れからの大学生活の先が見えず不安である
　-10将来の進路について不安である
９．この研修に関する意見をお聞きします。研修目的，研修内容，研修準備，目的地，宿泊施設，費用，その他，何か気づいたことがあったら，お聞かせください。

資料３　事後調査票調査項目　幼児教育学科用　解答欄・自由記述欄を省略した。
まず，研修全体についてお尋ねします。
１．宿泊研修の開催時期は適切だったと思う　2. 研修期間，1 泊 2 日は適切だったと思う
３．研修場所はよかったと思う　4.費用は適切だったと思う　5.参加してよかったと思う
つぎに，宿泊施設－トヨタ白川郷自然學校－の施設や設備についてお尋ねします。
１．施設や設備は快適でしたか　　２．食堂は快適でしたか
３．食事の内容はよかったですか（夕食と朝食）
４．白川村特製弁当の内容はよかったですか　　５．居室は快適でしたか
６．睡眠はよくとれましたか
７．宿泊施設について，このほかに何か意見があれば書いてください
白川村での村内交流についてお尋ねします。
１．あなたは，次のうちどの村内交流プログラムに参加しましたか
　１　白川保育園　　２　ゲートボール大会　　３　民家園（語り部）
　４　特別養護老人ホームさくら山荘　　５　デイサービスしゃくなげ荘
　６　平瀬保育園　　７　その他（参加しなかった）
２．このプログラムでいい体験ができましたか

３．村内交流以外の自由時間をどのように過ごしましたか
４．また機会を作って訪れたいと思いますか
５．白川郷での過ごし方について，意見があれば書いてください
つぎに，研修プログラムについてお尋ねします。
１．第１日目の昼間（トヨタ自然学校･社福学科との交流）の内容はよかったですか
２．第１日目の夕方（じゃんけん列車とドッヂボール）の内容はよかったですか
３．第１日目の夜（「はじめの一歩」のワーク）の内容はよかったですか
４．第２日目の午前中（インタプリッターと自然散策）の内容はよかったですか
５．第２日目の昼間（村内交流）の内容はよかったですか
つぎに，クラスメイトや教員，白川村の人との交流についてお尋ねします。
１．クラスメイトと交流をする時間が十分ありましたか
２．クラスメイト間で交流を深めることができましたか
３．他学科のクラスメイトと交流をする時間が十分ありましたか
４．他学科のクラスメイトと交流を深めることができましたか
５．教員と交流をする時間が十分ありましたか
６．教員と交流を深めることができましたか
７．白川村の人と交流する時間が十分ありましたか
８．白川村の人と交流を深めることができましたか
９．そのほかの人との交流について，なにか記憶に残ることがあったら書いてください
あなた自身の内的体験についてお尋ねします。
１．コミュニケーションの大切さについて学んだ
２．すすんで行動することの大切さについて学んだ
３．責任をもつことの大切さについて学んだ
４．協調性やチームワークについて学んだ
５．何らかの成長があったと思う
　最後に　今回の研修を振り返ってみて，どのような研修だったと思いますか。いろいろな問題点や課題，反省点，楽しかったこと，思い出になりそうなこと，どんなことでもかまいません。考えたこと，気づいたこと，憶えていることなどを以下の欄に自由に書いてください。